

編 修 趣 意 書

(教育基本法との対照表)

| | | | | |
|------------|------------|----------|-------|-----|
| ※受理番号 | 学校 | 教科 | 種目 | 学年 |
| 102-307 | 中学校 | 社会 | 歴史的分野 | 1-3 |
| ※発行者の番号・略称 | ※教科書の記号・番号 | ※教科書名 | | |
| 225 自由社 | 歴史 712 | 新しい歴史教科書 | | |

1. 編修の基本方針

編修の基本方針は、教育基本法第2条に規定された教育目標を達成するため、学習指導要領・歴史的分野の3つの目標に即して、「思考力、判断力、表現力等」を養うことのできる歴史教科書とすることである。

さらに具体的には、上記の課題を実現するため、学習指導要領の示すところに忠実に従い、とりわけ、目標(2)で規定された「歴史に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目」して考える手助けとなる教科書をめざすことである。

2. 対照表

| 図書の構成・内容 | 教育基本法第2条の徳目（【 】で表記）との対応と、特に意を用いた点や特色 | 該当箇所（ページ） |
|---|---|----------------|
| 本文の他に、各単元内にミニコラムを置いて歴史事象の関連や背景に踏み込み、さらに、1ページコラム、2ページコラムなどを配置。 | 【幅広い知識と教養を身につけ】 単元の頁に適宜配置されたミニコラムの文章教材の他、1ページコラムおよび2ページコラムが、歴史に厚みと奥行きを与える独自の読み物として、幅広い知識と教養を身につけさせる入口となるよう配慮した。（第2条第1号） | 全体 |
| コラム・正確な日本地図をつくった伊能忠敬 | 【真理を求める態度を養い】 地球の大きさを実測して知りたいという科学的探求の熱意と努力が、正確な日本地図の作成につながっていったことを記述した。（第1号） | 135 |
| コラム・赤穂浪士と武士の忠義 コラム・日本の実業家の伝 | 【豊かな情操・道徳心を培う】 忠義とは自己の属する共同体を守るため「私」を超えて「公」のために尽くすことであることを歴史上の物語によって示した。 渋沢栄一が商人としての誇りと高い道徳心を説き、「 | 138 204-205 |

| | | |
|--|---|----------------------|
| <p>統をつくった渋沢栄一</p> <p>コラム・東日本大震災と日本人</p> | <p>論語と算盤」という言葉に象徴される、日本の実業家の伝統をつくったことを記述した。</p> <p>世界から絶賛された日本人の冷静・沈着なふるまいと、自己犠牲の精神を明らかにし、日本人の道徳心について考える手がかりとした。(第1号)</p> | <p>282</p> |
| <p>コラム・水泳ニッポンと1964年の東京五輪</p> | <p>【健やかな身体を養う】</p> <p>「フジヤマのトビウオ」とあだなされた古橋広之進らの活躍が、敗戦に打ちひしがれていた日本人を励まし、1964年の東京五輪が大成功に終わったことを述べた。(第1号)</p> | <p>269</p> |
| <p>コラム・福沢諭吉の『学問のすすめ』と脱亜論</p> | <p>【個人の価値を尊重し】</p> <p>「一身独立して、一国独立する」という名言をもとに、日本人一人ひとりの独立心と主体性こそが一国の独立のもとであるという福沢の思想を紹介し、個人の価値を尊重する態度の育成に資するように配慮した。(第2号)</p> | <p>187</p> |
| <p>序章第4節・人物を通して時代をとらえる、の中で「からくり儀右衛門」こと田中久重を取り上げた</p> | <p>【その能力を伸ばし、創造性を培い】</p> <p>序章の人物学習の中で、日本のものづくり技術の高さを示す事例として、「からくり儀右衛門」こと田中久重を取り上げ、日本人の創造性に気付かせるように配慮した。(第2号)</p> | <p>17</p> |
| <p>コラム・二宮尊徳と勤勉の精神</p> | <p>【職業及び生活との関連を重視し、勤労を重んずる態度を養うこと】</p> <p>江戸時代に勤勉の精神を説いた二宮尊徳は、勤労を美德と捉える日本人の伝統をつくり出した。同時に尊徳は理財家としての合理的側面も兼ね備えていたことに気づかせるように配慮した。(第2号)</p> | <p>139</p> |
| <p>コラム・迫害されたユダヤ人を助けた日本人・樋口季一郎と杉原千畝</p> | <p>【正義と責任】</p> <p>迫害されたユダヤ人を助けた日本軍人や外交官は、正義にかなった責任ある行動をとったものであることが理解できるように配慮した。(第3号)</p> | <p>237</p> |
| <p>序章第4節・日本人最初の女子留学生・津田梅子</p> <p>コラム・ペリーは日本人をどう見たか</p> | <p>【男女の平等】</p> <p>序章の人物学習で、伝記記述の事例として「日本人最初の女子留学生・津田梅子」を取り上げ、世界的な視野を持ち、近代日本女性の教育に生涯を捧げたことに注目させるよう配慮した。</p> <p>幕末に書かれた「ペリー遠征記」を引用し、外国人の客観的視点から、日本社会で日本の女性が高い尊敬を受けていることを紹介した。(第3号)</p> | <p>18</p> <p>159</p> |
| <p>コラム・勇気と友情の物語・</p> | <p>【自他の敬愛と協力を重んずる】</p> <p>イラン・イラク戦争の最中に、孤立した日本人を助け</p> | <p>280-281</p> |

| | | |
|---------------------------|--|---------|
| 世界と交流した近代日本 | <p>るため救援機を出したトルコ。その背景には、95年前に、遭難したトルコの軍艦エルトゥール号の乗組員を和歌山県串本町の人々が懸命の救援をして助けた歴史があった。台湾では日本が派遣した技術者・八田與一が東洋一のダムをつくって台湾の人々を救った物語を紹介した。</p> <p>(第3号)</p> | |
| 資料・十七条の憲法 | <p>【公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養う】</p> <p>聖徳太子の十七条の憲法を、全文にわたって平易な現代語で記載し、この中で初めて「公」の観念と国家の理想が提起され、「公」のために働く役人の心構えが示されたことを理解できるように配慮した。</p> | 45 |
| コラム・明治維新とは何か | <p>公のために自己犠牲をいとわない武士の規範と精神が、世界に例のない明治維新という変革を可能にしたことを理解できるように配慮した。(第3号)</p> | 170-171 |
| ミニコラム・戦争と全体主義の犠牲者 | <p>【生命を尊び】</p> <p>20世紀は人類史上最も文明の発達した世紀でありながら、2度の世界大戦と2つの全体主義の犠牲者が約1億6000万人に達するという冷厳な事実を指摘し、21世紀には二度とこの愚行を繰り返すことのないよう訴えた。(第4号)</p> | 275 |
| コラム・エコロジー都市江戸 | <p>【自然を大切にし、環境保全に対する態度を養う】</p> <p>当時世界一の人口をかかえた大都市・江戸が、完備された上下水道と無駄のない資源再生システムを有していたことを述べた。(第4号)</p> | 140 |
| 単元6・自然の恵みと縄文文化／コラム・和の文化縄文 | <p>【伝統と文化を尊重し】</p> <p>縄文時代が争いのない、豊かで調和のとれた社会であり、自然との共生、人と人との和をもとにした持続可能な安定した社会であったこと、そこから日本社会に特有な和の伝統が生まれたことを示唆した。</p> | 30-33 |
| コラム・国譲り神話と古代人 | <p>神話の中に投影された、政策決定における合議、敗者を手厚く遇することなど、日本人の伝統的思想が読み取れるように配慮した。</p> | 40-41 |
| コラム・日本の天皇と中国の皇帝 | <p>《コラム・日本の天皇と中国の皇帝》などによって、古代から現代まで皇室が日本の伝統と文化の中心であり、独自の文明の象徴であったこと、また神話に淵源を持つ皇統が現在も継続していることが世界的に見て希有の存在であることに気付かせるよう配慮した。</p> | 53 |
| ミニコラム・元号を使い続ける日本 | <p>元号は東アジアの漢字文化圏で行われていた長い伝統であったが、近代の革命その他の原因で消滅し、現在では元号を使い続けているのは日本だけであることを述べた。(第5号)</p> | 49 |

| | | |
|--|---|---|
| <p>グラビア・日本歴史の舞台</p> <p>序章第3節・地域の歴史を調べる</p> <p>コラム・外の目から見た日本（シリーズ）</p> <p>コラム・日露戦争を戦った日本人</p> | <p>【それらを育ててきた我が国と郷土を愛する】</p> <p>高度1万メートルから見た航空写真には縄文以来の豊かな自然の恵みが、1千メートルからは日本の歴史を支えた生産力の基礎となる稲田の広がり、そして、100メートルからはものづくりの現場でもある町工場が見えてくる、という設定で、日本の国土を愛し、そこで培われた歴史を愛する素地が自然と生まれるように工夫した。</p> <p>堺市の歴史を取り上げ、古代から近代まで、郷土に刻まれた歴史を探究することを通して、郷土を愛する心情の土台がつけられるように配慮した。</p> <p>《コラム・外の目から見た日本》を各時代に配し、話題として、魏志倭人伝、宣教師が見た日本、世界が見た日露戦争、大東亜戦争とアジアの独立、を取り上げた。</p> <p>これらの教材を通して、それぞれの時期に日本人を観察する機会があった外国人が日本人の高い道徳性を公正に評価していることに気付かせ、肯定的な自画像を結ばせることで、我が国への誇りと愛国心が自然な形ではぐくまれるように配慮した。</p> <p>沖縄の宮古島に伝わる「久松五勇士」の話題を通して、軍人や兵士だけではなく、銃後の庶民も愛国心を発揮して日露戦争をたたかったことを象徴的に示すことによって、我が国を愛する心情を養うことに資するよう配慮した。（第5号）</p> | <p>2-3</p> <p>12-15</p> <p>35、116、196、248－249、</p> <p>194-195</p> |
| <p>コラム・外の目から見た日本（シリーズ）</p> <p>コラム・迫害されたユダヤ人を助けた樋口季一郎と杉原千畝</p> <p>コラム・勇気と友情の物語―世界と交流した近代日本</p> | <p>【他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養う】</p> <p>他者や他国からの視点と評価を学ぶことによって、他国を尊重し、国際社会の中で生きる日本人の資質の土台をつくるように配慮した。</p> <p>ユダヤ人を助けた日本人の事績を紹介し、勇気をもって、他国・他民族を苦境から救う行為の尊さに気付かせるように配慮した。</p> <p>トルコと台湾との関わりを例にして、他国を尊重することの大切さを理解できるように配慮した。（第5号）</p> | <p>41、120、180-181、208、248、276</p> <p>237</p> <p>274-275</p> |
| <p>3. 上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特色</p> | | |
| <p>教育基本法第5条に示された義務教育の目的のうち、「各個人の有する能力を伸ばす」ために、歴史の基礎知識を身につけるとともに、歴史に対するより高いレベルの知的関心にも答えうる構成を工夫した。</p> <p>また、学校教育法第21条に規定された義務教育の目標を達成するため、①規範意識、公正な判断力、公共の精神にかかわる教材の選択を重視し、②我が国と郷土を愛する態度の育成に資することを目指し、③文章や会話を中心とした表現能力を育てることも重視した。以上の詳細は、様式第5-2学習指導要領との対照表の中で述べる。</p> | | |

編 修 趣 意 書

(学習指導要領との対照表、配当授業時数表)

| | | | | |
|------------|------------|----------|-------|-----|
| ※受理番号 | 学校 | 教科 | 種目 | 学年 |
| 102－307 | 中学校 | 社会 | 歴史的分野 | 1－3 |
| ※発行者の番号・略称 | ※教科書の記号・番号 | ※教科書名 | | |
| 225 自由社 | 歴史 712 | 新しい歴史教科書 | | |

1. 編修上特に意を用いた点や特色

(1)教育基本法第 2 条に掲げられた約 20 の徳目（教育目標）を達成することを最も重視し、その方法として、学習指導要領で目標 (2) の中に規定されている「我が国の歴史に対する愛情、国民としての自覚」を涵養することに役立つ歴史教科書を目指す。ただし、その場合、「歴史に対する愛情」は、「多面的・多角的な考察や深い理解として涵養される」ものでなければならない。これが、歴史を語り、書く基本的な姿勢である。

(2) 学習指導要領は、上記の目標を達成するための手段として、歴史的分野で扱う社会的事象の見方・考え方を提起し、その内容として「社会的事象を、時期、推移などに着目して捉え、類似や差異などを明確にし、事象同士を因果関係などで関連付けること」という観点を示した。本教科書は、まさにこの観点から、全体を構造的に関連付けて構成した。

(3) 上記の課題に迫るための具体的な編集上の工夫を以下に列挙する。

①教科書本文の文体を、子どもに親しみやすい「です・ます」体にするとともに、内容は分かりやすく面白く、生徒の興味をかき立て、知的好奇心に訴えるものとなるように工夫した。

②教科書の単元の周辺には、本文を補足し、発展させる多くの教材を配置した。それらの教材には通し番号をつけて言及しやすくするとともに、次のような多彩なカテゴリーを設けた。

・注 ・歴史資料（史料）となる文書 ・年表 ・地図 ・図版 ・写真 ・小さなコラム

・知っとくポイント（これは直接単元の内容と密接につながっているわけではない豆知識を盛り込んだ）

③欄外には、年表を置き、その単元で学ぶことが、このモノサシ年表でどこに位置するかを明確に意識できるようにした。

④単元の末尾には「チャレンジ」という記事を置き、単元ごとに簡単な知識の整理が出来るようにした。

⑤男女の子どものキャラクターを適宜配置し、そのセリフによって学習のポイントを示唆するとともに、学習の場を和ませることを意図した。

⑥単元の概説的な記述ではまだ歴史の深さを実感するには不足していると考えられた場合、1 ページ、または 2 ページのスペースをとって、大型のコラム記事を配置した。これによって、生徒は歴史をさらに深く学び考える素材を与えられるであろう。

⑦各章の章末には、次の 4 つの記事を配置するのを提携とした。

○調べ学習のページ 生徒の探究をうながす課題学習のページである。

○復習問題のページ 基礎的な用語・知識の定着をはかるための問題を作成した。

○時代の特徴を考えるページ ここでは、「歴史用語ミニ辞典」を生徒がつくるという課題を与え、かつその方法として 3 文でまとめる手続きを示した。その他、時代比較の問題、人物比較の問題、「ひとこと」作文、意見交換会、などの多彩な学習課題を提起し、学んだことを自分で構造化するレッスンの場とした。

○対話とまとめ図のページ 兄弟・姉妹のキャラクターによる、時代の鳥瞰・大観のための対話変とした。また、まとめ図では、時代の特徴を様々な手法を駆使して構造化して示した。

⑧巻末には、重要用語解説のページをつくり、本文で十分扱えなかった用語の明確化をおこなった。

⑨巻末には、世界各国・王朝の興亡一覧という資料を配置した。これは、世界史的な内容を整理する上でも役立つに違いないと考える。

⑩元号→西暦早見表は、歴史小説などを読むときにも使える、便利な資料となるはずである。

2. 対照表

| 図書の構成・内容 | ページ | 学習指導要領の内容 | 配当時数 |
|--|-------------------------------------|--|------|
| 日本の世界遺産 旧国名と都道府県名 歴史を学ぶとは 日本歴史の舞台 | 巻頭グラビア 同上 2 3 | 目標の(3)文化遺産の尊重 内容の取扱いのイ・地図の活用 目標(1)わが国の歴史の大きな流れ | 1 |
| 序章 歴史のとらえ方 第1節 歴史と物語と史料 第2節 年代の表し方と時代区分 第3節 地域の歴史を調べる 第4節 人物を通して時代をとらえる | 7-68 8 9-11 12-15 16-18 | 目標(1)諸資料の活用 A 歴史との対話(1)ア(ア)年代の表し方・時代区分の意義 A(2)身近な地域の歴史 A(1)イ(ア)歴史上の人物・時代区分とのかかわりを考察 | 5 |
| 第1章 古代までの日本 第1節 世界の古代文明と宗教の起こり | 19-68 20-29 | B 近世までの日本とアジア (1) 古代までの日本・ア | |

| | | | |
|-------------------------|---------|-----------------------------|----------------|
| 第2節 日本列島における国家形成 | 30-43 | 同上(イ)日本列島における国家形成 | 24 (18単元+6) |
| 第3節 律令国家の形成 | 44-63 | 同上(ウ)律令国家の形成 | |
| ○調べ学習のページ | 64-65 | 目標(1)諸資料からまとめる | |
| ○復習問題のページ | 66 | 内容の取扱い(1)基礎的・基本的事象の選択 | |
| ○時代の特徴を考えるページ | 67 | 同上・時代の特徴・時代の転換 | |
| ○対話とまとめ図のページ | 68 | 同上 | |
| 第2章 中世の日本 | 69-100 | B(2)中世の日本 | 16 (12単元+4) |
| 第1節 武家政治の成立とユーラシア | 70-83 | 同上(ア)モンゴル帝国の拡大によるユーラシアの結びつき | |
| 第2節 武家政治の展開 | 84-95 | 同上(イ) | |
| ○調べ学習のページ *以下、第1章に同じ | 96-100 | 省略 | |
| 第3章 近世の日本 | 101-146 | (3)近世の日本 | 20 (15単元+5) |
| 第1節 世界の動きと日本の統一事業 | 102-199 | 同上(ア)ヨーロッパ人来航の世界史的背景のなかで | |
| 第2節 江戸幕府の政治 | 120-129 | 同上(エ)幕府の政治の展開 | |
| 第3節 産業の発達と町人文化 | 130-141 | 同上(ウ) | |
| ○調べ学習のページ *以下、第1章に同じ | 142-146 | 省略 | |
| 第4章 近代日本の建設 | 147-210 | C近現代の日本と世界 | 31 (22単元+9) |
| 第1節 欧米の革命と日本への接近 | 148-155 | 同上(1)近代の日本と世界 | |
| 第2節 明治維新と近代国家の成立 | 156-181 | 同上(イ)明治維新と近代国家の形成 | |
| 第3節 立憲国家の成立と日清・日露戦争 | 182-199 | 内容の取扱い(1) | |
| 第4節 近代産業と近代文化の形成 | 200-205 | 同上(エ)近代産業の発展と近代文化の形成 | |
| ○調べ学習のページ *以下、第1章に同じ | 206-210 | 省略 | |

| | | | |
|--|---|--|-------------------|
| 第5章 二つの世界大戦と日本 第1節 第一次世界大戦とその影響 第2節 第二次世界大戦と日本 ○調べ学習のページ *以下、第1章に同じ | 211－254 212－223 224－249 250－254 | 同上(オ) 第一次世界大戦と大衆の出現 同上(カ) 第二次世界大戦と人類の惨禍 省略 | 23 (17 単元 + 6) |
| 第6章 現代の日本と世界 第1節 占領と冷戦 第2節 高度経済成長と日本の発展 第3節 冷戦の終結と平成時代、そして未来へ ○調べ学習のページ *以下、第1章に同じ | 255－288 256－265 266－273 274－282 283－288 | (2) 現代の日本と世界 同上(2) アの(ア) 日本の民主化と冷戦下の国際社会 同上(イ) 日本の経済の発展とグローバル化する世界 同上(イ) 冷戦の終結とわが国の役割の増大 省略 | 13 (10 単元 + 3) |
| 歴史を学んで－日本の歴史の特色は何か 重要用語解説 事項さくいん 人名さくいん 年表 世界各国・王朝の興亡一覧 元号→西暦早見表 | 289 290－291 292－297 298－300 301－302 巻末グラビア 同上 | 各所 わが国の歴史の大きな流れ、日本文化の特色内容の取扱い(1) ウ・歴史事象の意味や意義(概念の明確化) 同上イ・年表を活用した読み取り 各所 世界の中の日本 目標(2) 歴史事象の時期や年代 | 2 |

計 135